出雲 北陵月報

No. 438
令和４年２月28日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社　印刷

ここから　心から

学年主任　**伊藤敦志**

本校の教育課程を終え、卒業を迎えられましたこと、心よりお喜び申しあげます。

卒業生の皆さんはもちろんのこと、それ以上に保護者の皆様の感慨もひとしおのことと思います。これまでのご厚情に心より御礼申しあげます。

皆さんが入学された平成三十一年の春は、新しい元号「令和」が決まる直前。個性豊かな皆さんが期待と緊張と不安で本校での生活を始めたあの頃を思い出します。私たち教職員も皆さんと同じ思いで出雲北陵高等学校の生活を歩み始めました。そして卒業を迎えるこの日まで、皆さんとともに切磋琢磨、悪戦苦闘したあのことや、このことが思い出されます。喜怒哀楽を積み重ね大きく力強くなった皆さんの、出雲北陵高校卒業生としての活躍を期待して止みません。そのヒントになるかどうか、高校生活を振り返りながら読んでみてください。

人の世の中を足し算引き算わり算かけ算で見てみると、ひょっとしたらこんな法則が成り立つような気がします。

足し算は堅実に積み上げること。あなた自身の良さ、強みはどんどん足して重ねていこう。足した分だけあなたの魅力が増えます。かけ算にすれば何倍にも増えます。わり算は独り占めせず分かち合うこと。楽しいことや嬉しいことは近い人にも分けていこう。分けた分、あなたに返ってくるものがあるはずです。引き算はちょっとまずかったな。心に引っかかって消えない大きな「失敗」は思い出すのもいやです。年を重ねると減ってくれるといいですが、私は今も「失敗」が多いように思います。けれども、マイナス（失敗）には不思議な力があります。

マイナスとマイナスをかけ算するとプラスに変わります。現実のこの世の中でこの理屈が成り立つことが見当たりません。魔法のような現象です。ところが、この現象は私たち人間だからできることが一つだけあるように思います。それはあなたが魔法を使えばいいのです。その魔法は「心」です。かけ算は何倍にもなる魔法です。失敗を見つめ、自分を見つめ、心を込めたとき何倍にもなる財産が生まれるのではないでしょうか。

皆さんが、これまでの経験を生かし力強く歩んで行かれることを期待しています。そして未来の再会を楽しみにしています。

卒業おめでとうございます

三年一組担任　**陶山　浩史**

真新しい制服を身にまとい、凛とした姿の中にも、あどけなさが残る皆さんが、希望に胸を膨らませ入学してから早くも３年がたちました。皆さんはコロナ禍で様々な活動が制限される中、学習活動や学園祭等の生徒会活動に工夫を凝らし、心に残る素晴らしいものをつくり上げてきました。皆さんの活躍一つひとつを目にすることで成長を肌で感じ、私自身もともに成長することができました。

この３年間でたくましく成長された皆さんは、この春から新たな目標に向かって巣立って行くわけですが、環境も変わり、厳しい現実が待ち受けていることと思います。様々な壁にぶち当たり弱気になり、挫けそうになった時には、また目標を立てた原点（初心）に立ち返ってみてください。そして、自分を信じて失敗を恐れず、諦めずに挑戦し続けてください。そうすれば、きっと何かしらのエネルギーが湧いてくることと思います。皆さんのご活躍を心からお祈り致します。

贈る言葉

三年二組担任　**椿　英史**

卒業おめでとうございます。

高校生活の３年間はとても短い年月であったと思います。皆さんが日々成長をしていく姿が見れないと思うと寂しさを感じます。２組は、いつも明るく元気なクラスでした。皆さんからもらった元気のお陰で、３年間担任を頑張ることができました。

これから皆さんは、多くの人との出会いがあると思います。職場の先輩や学校の先生、先輩など、今までとは違った環境で多くの方々に支えられて生活をしていくことになります。その人たちから多くのことを学び、日々成長して欲しいと思います。この４月からは皆さんは成人となり、自分で考え、判断し行動していくことが大事となっていきます。失敗を恐れず、人間力を高めるためにいろんな挑戦をして欲しいです。

出会いを大切に・学ぶ姿勢を忘れない・感謝の気持ち

これからの皆さんのご活躍を心から祈っています。

贈る言葉

三年三組担任　**遠藤　圭晃**

皆さんとの時間は、たったの２年間でした。この２年間は皆さんにとってどのような時間だったでしょうか。教員生活10年になる私にとっては10年の中の２年でしかありませんが、生徒である皆さんにとっては、密度の濃い２年間だったのではないでしょうか。同じ２年間という時間でも、学生と社会人では捉え方が違います。これから皆さんは社会人になっていきます。そうすると、１日の変化を感じなくなり、１週間の変化を感じなくなり、１年間の変化を感じなくなっていくことでしょう。しかし、それを楽しい人生といえるでしょうか。生徒という立場を卒業し、お金を稼げるようになります。せっかく自由になったのに、変化のない生活はもったいない。それをよしとしない３組の生徒の皆さんにこの言葉を贈ります。

「一日の生活に変化を求めなさい。
無理をしてでも友人と会いなさい。」

「道」

三年四組担任　篠原　勝利

3年生の皆さん卒業おめでとうございます。高校生活はこれで終わります。明日からそれぞれの進路に向け進んでいかれることでしょう。そんな皆さんに一つ詩を送ります。

この道をいけばどうなるものか
危ぶむことなかれ
危ぶめばみちはなし
踏み出せば
その一歩が道となり
その一歩が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

皆さんの今後の活躍を期待しています。

出航～ふなで～

三年五組担任　柳樂　正也

2月2日㈬8時40分、いつも通り教室に足が向いたが、そこには誰の姿もない。別れの時が近づいたのだと実感した。

皆さん、この3年間はどうでしたか？私にとって皆さんと接した3年間は新たな挑戦でした。思い描いた通りのことはできませんでしたが、目標に向けて粘り強く取り組む皆さんから力をもらい、多くのことを学びながら進むことできました。最後に2点皆さんにお願いをします。

・学び続ける姿勢を忘れない
・切れてはならない「縁」を見極める

さあ、いよいよ出航の時です。社会という荒波に揉まれて転覆しても立て直し進んでください。私もまた新たな航海に出ます。

「卒業おめでとう！」

卒業生、第1号たちへ

三年六組担任　妹尾　一希

勤務し始めてから6年、その半分の時間にあたる3年間を皆さんと一緒に過ごしてきました。皆さんは一人ひとり個性豊かで多種多様ではありながらも、いざと言うときは、クラス一丸となって学校行事に取り組んだり、受験に向けて協力し合ったりと、場面場面で様々な顔を見せてくれ、頼もしさを感じることが多々ありました。

4月からは、それぞれの夢の実現に向け、大きく動き出すことになります。専門的な学びが始まり、技術等も身に付けていかなければいけません。今まで以上に、困難に直面し難題を強いられ、悩む日々がたくさん来ると思いますが、諦めず前を向いて歩き続けてください。皆さんなら、最後までやり遂げることができます。これから先も、ずっと応援しています。

3年間、有難うございました。卒業おめでとうございます。

中・高卓球部

天皇杯・皇后杯2022年全日本卓球選手権大会（一般・ジュニアの部）
時　1月24～30日
於　東京体育館

〈ジュニア男子シングルス〉
ベスト32　小野泰和（中3-1 小山）
2回戦敗退　佐藤卓斗（1-4 北陵）
1回戦敗退　杉浦大和（2-2 北陵）
〈一般男子シングルス〉
2回戦敗退　原田哲多（3-4 北陵）
〈ダブルス〉
4回戦敗退　杉浦大和・佐藤卓斗　組
○大会総評

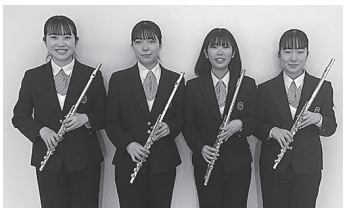
上位進出はならなかったが、ジュニアの部（U－17）で小野泰和が中学生ながら4回戦に進出し、今後の活躍に期待を抱かせる内容であった。全国トップレベルの選手と比べると、フィジカルやメンタルの強さ、技術の正確性、戦術の幅が足りない。今大会で明確になった課題を今後の練習で克服していきたい。

（顧問　古瀬泰之）

吹奏楽部

第45回全日本アンサンブルコンテスト中国大会
時　2月6日
於　周南市文化会館　大ホール

コロナ禍の中、大会開催も危ぶまれたが、徹底した感染症対策のもと大会が行われることとなり、本校からはフルート4重奏が出場した。休校もあり、満足に練習することができず、厳しい状態での出場となったが、生徒たちは最後までよく努力し、美しい音色で素晴らしい演奏を披露した。結果、見事金賞をいただくことができた。



4重奏出場メンバー

この貴重な経験を糧に、更にレベルの高い演奏、そして皆様に愛されるバンドを目指し、日々精進していきたい。引き続きご支援ご声援のほどよろしくお願い致します。

・フルート4重奏　金賞
カプリッチョ／朴　守賢
（副顧問　竹内康貴）

卒業直前講座

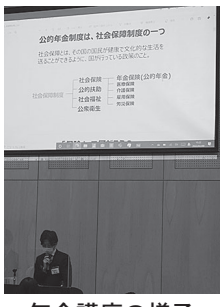
時　2月9日
於　本校黎明ホール

例年開催している、高校三年生向け卒業直前講座が2月9日に開催されました。オミクロン株感染者が島根県内はもとより全国で高止まりしている中、開催形態についてご講演いただく講師の方々や校内で検討を重ね、「中止」も視野にありましたが、ICT元年の今こそ、このチャンスを逃すまいとの強い決意のもと、日時・時間の変更なく、会場を分散し各会場へリモートで配信して開催しました。

「租税教室」を開いていただいた森脇俊樹先生は本校野球部の先輩であり、卒業生会の会長でもあります。卒業を間近にした3年生にとっては、より親近感を持って自分のこととして考えられたのではないかと思います。自分の生涯の支えとなる「年金」、社会を支え合う「租税」、これからも皆さんの人生にとって大切なテーマとなるはずです。

これまで直接また間接的に多くの人に支えられて出雲北陵高等学校卒業を迎えます。卒業後は自らの力で社会を力強く歩み、自分の生涯を自分で築き上げるとともに、よりよい社会を築き支え合う社会人として、更なる成長を期待しています。

租税教室の様子



年金講座の様子

美術・CGデザインコース 第21回 卒業制作展

時　2月12・13日
於　出雲文化伝承館

美術・CGデザインコースの3年間の集大成である卒業制作展を出雲文化伝承館で行った。コロナ禍での開催となったが163人の来場者を迎え、賑やかに開催することができた。本年は「六彩色」をテーマに、それぞれの個性を生かしながら制作、運営・広報に1年間準備してきた。会場は力作が並び、高校生らしい爽やかな展覧会となった。

今後はそれぞれの進路に進むが、この3年間を糧に将来へ向かって努力を続けてくれることを期待している。開催にあたり、ご支援いただいた皆様に厚くお礼申しあげます。

（コース主任　飯塚康弘）

会場の様子

音楽コース 第29回 卒業演奏会

時　2月13日
於　ビッグハート出雲 白のホール

音楽コース29期生10名による卒業演奏会を開催した。生徒たちはそれぞれ各専攻教官の指導の下で積み上げた実力を発揮し、3年間の集大成となる見事な演奏を披露した。

ここに至るまで様々な形でご支援、ご声援を賜りました保護者の皆様をはじめ、各専攻教官の皆様、地域の皆様、ご来場いただきました皆様、関係者の皆様に心から感謝申しあげます。

（コース主任　原田　実）

音楽コース29期生10名

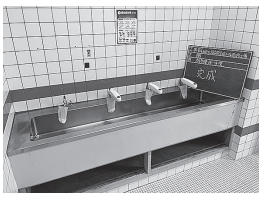
中学校

感染症対策の一環としてトイレの改修工事と手洗い場の自動水洗化を実施

この冬休みに、県の新型コロナウイルス感染症対策事業補助金を活用し、校舎、体育館等の和式トイレ23箇所を洋式トイレ（温水洗浄機能付き）に改修しました。

また、手洗水栓24本を昨年度に引き続き自動化しました。

感染症対策については、今後も補助金等を有効利用し、換気機能付きエアコンの整備等を行う予定です。



手洗水栓の自動化

洋式トイレ（温水洗浄機能付き）

第3回 合同道徳

時　2月14日
於　北陵ホール他
講師　手錢修司中学教頭

2月14日7限に、手錢修司教頭先生による合同道徳が行われた。

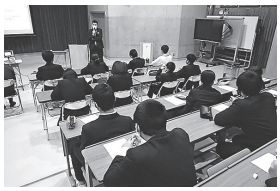
教頭先生のこれまでの人生の深い話に生徒は聞き入った。

【生徒の感想】

今日の手錢先生のお話を聞いて、命の大切さについて改めて深く考えさせられました。幼い時に「家族の死」を経験された先生の生い立ちを自分におきかえてみると、とても苦しい状況だと思いました。それでもくじけず最後まで自分の生き方を貫かれたと聞いて素晴らしいと思いました。また、息子さんが事故にあわれた時のことから、親としての気持ちを話してくださいました。親にとっての宝は子供なのだということがよくわかりました。自分は、親元を離れて島根県に来ています。ここに送り出してくれた親にとても感謝したいと思いました。

最後に、先生が子供の頃の夢を今叶えておられることから、夢を持つことは大切なことだと思いました。これから自分も自分の明確な目標と夢を持って、一日一日を大切に生活していきたいです。

小野泰和（中3鏡山）



中学2年生スキー研修

時　2月4日
於　琴引フォレストパーク

本年度も中学2年生を対象としたスキー研修を実施した。慣れない動きに戸惑いながらも、基礎を身につけるにつれて、笑みがこぼれ楽しく滑ることができた。自然の壮大さや怖さを肌で感じながら、集団で協力して行動することの大切さも学ばせてもらった。コロナ禍で活動に制限がかかる中、クラス行事を通して思い出を作ることができたことに感謝したい。今回の経験を今後の学校生活に生かし、更なる成長につなげたいと思う。

出雲科学館 理科学習（中学1年）

時　2月10日
於　出雲科学館

本年度最後となる出雲科学館理科学習が開催され、1年生18名が単元「火をふく大地」を受講した。中学生の実験ではあまりふれる機会のない偏光板装置付き光学顕微鏡を用いての斑状組織、等粒状組織の観察、三瓶山で採取した火山灰から無色鉱物、有色鉱物を分別する方法、双眼実体顕微鏡を用いて鉱物の色や形の違いを見分け、火山灰に含まれる石英、長石、黒雲母、磁鉄鉱などを見分ける観察など、生徒は興味深く真剣に学習に取り組んだ。また、その観察記録をもとに、出雲地方の6箇所で採れた火成岩の種類を分類する学習も班毎に話し合いながら楽しく考察できた。

最後にコロナ禍の中、教材準備や蔓延防止策を講じ、理科学習を開講していただいた出雲科学館の職員の皆様に感謝致します。

双眼実体顕微鏡を用いての観察

作品と研究

「礼法を学んで」

「礼法」は、「礼儀作法」を学ぶ本校独自の教科です。現在は高校一年生が毎週一時間、担当の教員の講話を聞いたり、日常生活で基本となる様々な動きを通して作法を身につけたりしています。

影山　竜斗（1-2 二）

礼法を学んで、最初はなぜこのような授業をする必要があるのか分かりませんでしたが、授業の回数を重ねていくうちに、礼法を学ぶことの大切さが少しずつ分かってきました。

私は、幼い頃から人と話すことが苦手で、挨拶をしようと思っても、いつも消極的になってしまいます。しかし、礼法を学んだおかげで、少しずつ挨拶をすることに抵抗がなくなりました。まだまだではありますが、以前よりはできるようになりました。挨拶だけでなく、物の受け渡しや、部屋に入る時の動作、一つひとつの細かいところにきちんと意味があるということを学びました。

礼法の授業を受けることで、普段の生活でも、たくさん良いことがあると思います。接する相手がもし礼儀が身についていないと、とても悲しく嫌な気持ちになります。普段から意識することで、自分も自然と身に付いていくと思います。身に付けば、目上の人や、先生、初対面の人など、相手からの印象が良くなるだけでなく、様々な場所で役に立ちます。礼法の授業を習うことに感謝し、これからの生活でも、礼儀作法を意識して生活していきたいです。

加藤優之介（1-3 斐西）

自分は礼法を学んで挨拶、感謝の言葉、人に対する思いやりの大切さを知りました。

地域の人に挨拶をする時は自分はできるだけ笑顔ですることを心掛けています。しかし、学校ではたまにいいかげんな挨拶をしてしまうことがあります。挨拶は、する側もされた側も気分が良くなります。これからもいいかげんな挨拶ではなく常に笑顔で自分からしていくことを心掛けたいと思います。

次に、礼法で学んだことは感謝の言葉の大切さです。先生に物をもらう時や友達に何かをしてもらったときは、感謝の言葉を言うようにしています。逆に何かを失敗したり、迷惑をかけたりしたときには「すみません」、友達には「ごめん」と言うようにしています。まだ、意識的に言っていますが、無意識に自然と感謝と謝罪の言葉が言えるようになっていきたいです。

最後に、礼法で学んだ事で大切にしたいことは、人に対する思いやりです。出雲北陵高校の校訓は「柔しく剛く」です。この校訓から自分は人にはやさしくして、自分には厳しくすることが大切だと知りました。困っている人がいたら自分から助けにいき、誰にでも平等に接し、自分には甘えず、何にでも厳しくしていこうと思いました。

礼法で学んだ挨拶、感謝の言葉、人に対する思いやりはどれも自分を成長させてくれる大切なことです。これからも礼法で学んでいくことはたくさんあると思いますが、自分の中ではこの三つを特に大切にしていこうと思います。

田中　蒼（1-5 出）

最初は、「礼法」とはどういう事を学ぶのか、本当に必要なのかと疑問に思っていました。しかし、実際は普段の生活や部活動、将来などに役立つ情報や常識などを学びなのだとわかりました。また、本校の校訓の「柔しく剛く」を通して人間関係についても考える事ができました。授業では、礼や挨拶、物の渡し方などの実技に取り組んだり、礼法の本質や目的、公共物の取り扱いについて話を聞いたりしました。自分の実技を人にどう見られているのか、正しいのかを客観視することで、将来、人としてどう印象付けられるかを考えながら取り組みました。また、これらの実技は、大学入試での面接でも、普段の生活でも大切なので、それらを意識して行動に移して習慣化していきたいと思いました。

本校の校訓は「柔しく剛く」で、もちろん、本校の生徒は必ず知っていると思います。自分が北陵高校に入る前の面接練習の時、本校の校訓の意味について考えました。なぜ、「優しく強く」ではなく「柔しく剛く」なのだろうかと。自分が考えたのは、優しい人になり、部活動を頑張り、努力を怠らない人だと考えました。しかし、実際は、ただ単純に優しい人ではなく、相手や周囲を考えた言動、勉強や部活動に対しても頑張り、普段の生活で自分に厳しく、自律するという意味でした。今の時代にとても重要な人材だと思います。

最近では、コロナウイルスによる、感染者や死亡者数が増え続け、ついに第六波に突入しました。そのような中、感染者を誹謗中傷するような人も増えている事が問題になっています。

だからこそ、今、礼法で学んだ相手の立場に立った思いやり、何事にも全力で、そして自分に厳しく、自律することが大切だと思いました。まずは、自分から行動し、日々の行動と向き合って生きていきたいと思います。

中島　美雨（1-6 大社）

私は今まで礼法を学んできて、意識や見方が変わってきたように感じます。礼法の授業では主に、基本的な作法や北陵高校の歴史について学びました。そういったことを学んでいくなかで、私は今まで当たり前のように行っていた礼や扉の開閉の所作などにも、一つひとつ意味があるのだということを、知ることができました。礼法というものは、周りを気遣う心が基盤になっているから、丁寧な所作や言葉遣いをされると、気持ちが良いのだと思いました。

私がこれまで何も考えずにしていたことも、礼法を学び始めてからは、一度周りのことを考えるよう、意識をするようになりました。例えば、授業の始めと終わりの礼は誠意をもってするように心掛けるようになりました。また、扉の開閉も音をたてたり、冷暖房で迷惑がかからないように気をつけています。自分自身だけでなく、人の気遣いに対しても見方が変わったように思います。公共の施設がきれいに保たれているのは、誰もが周囲のことを考えているからだと思います。

私は、一人ひとりが周りの人や物を大切に思い、ルールやマナーを守るから、気持ちよく生活が送れるのだと思います。そういう生活が成り立つための、基本的なマナーなどについて、教えてくれる礼法は、大切なものだと思いました。これからも、人や物を気遣う心を大切にして生活をしていきたいです。

今月の1枚　「警戒心」

福島　康太（3-3 斐西）